

「平家の落人伝説を歩む③」

（錦江町池田地区）

今月は、「大根占町誌」や半下石自治会の方からの情報をもとに制作しました。

錦江町の池田地区には、平家の落人に関する伝説や刀・矢尻などが多く残されています。また、平家にまつわる姓や地名も数多く残っています。

今回取材した、池田地区は、錦江町の山間部に位置し、根占・田代・内之浦・吾平に囲まれ、昔は領土争いが何度かあったとされるも、町境界があまり変動とところを見ると、この地域にしっかりととした、文化と一族があったことを伺えます。

池田地区の中心部に、旗山神社があり、この周辺の地名や姓に押領司とあります。

押領司（押領使）姓は、その当時、叛乱を鎮圧する軍事指揮官のことをいい、今で言う警察の役割をしていたとあります。また、この地区の各集落や地名にも半下石や足光谷・毛下・段中野など平家の落人の足跡を辿ることができる地名が残っています。今回は、地名や郷土誌などから、平家の落人伝説を歩んでみたいと思います。

池田地区の南西部に半下石と

いう集落があります。この集落は、錦江町の神川の上流16km、二股川の合流地点にあたり、国見山系の一小盆地で、昔は原生林にかこまれ清流が山間を蛇行して、社会と隔絶した集落だったそうです。寿永の項（一一八五年）壇之浦より落ちのびた一族は、肝付町（旧内之浦町大浦）より、峻険な稲尾獄の麓を山越えし、大原に出て、さらに奥地へと進み、一の野、二の野（半下石の東方約二キロ）の山を越え、潜居の地として敗走千里の旅装を解いた場所が、半下石だったと郷土誌に記述されています。郷土誌から見ると、六郎館岳、荒西山辺りを越えて来たと思われる。

また、半下石の地名には、足光谷や殿原などいわれのある地名が多く、足光は武装を解き足の甲まで洗った谷が足光谷、殿原は平家の公家が下馬した場所であるとも言われています。

また、郷土誌を見ると半下石に土着した末裔と称する釘田氏所蔵の系図によれば、内大臣左

大将平重盛の第八子従五位平常長とあります。常長には、一人の女の子（姫君）がおり、悪病に倒れたので、集落はずれの墓地（御暮山）に埋葬したとあり、現在の半ヶ石公民館敷地内にあたるそうです。

末裔とされる釘田家は系図によると、慶長八年のころ（1630年）平帯刀の代に平姓を改め、久木田の姓を名乗り、家宝の名刀一振りで大守島津家久公に献上したとされています。

先祖伝来の系図や刀・陣笠などもあり、毎年一族が集まり先祖祭りを行っていたと郷土誌に記述されていますが、現在では、集落で、山神祭りと同じ2月に祭りを行っています。そのほかにも、様々な記述や伝説がありますが、引き続き次号、池田地区の半下石集落から毛下集落方面へ歩んでみたいと思います。

平家の落人伝説にまつわる伝説や史跡などありましたら、情報提供をお願いいたします。



約5m30cmほどによる釘田家の家系図（一部抜粋）
平清盛から常長、釘田家（久木田）までの家系図が分かる資料

錦江町の歴史や言い伝え、昔の遊びや行事など、特集を組んで取り上げて行きたいと思います。町史や各資料より調べ掲載していきますが、掲載した内容と違う見解の資料などありましたら、錦江町役場企画課広報へご連絡下さい。錦江町の歴史や文化をひも解き、観光や地域づくりに繋げて行きたいと思います。また、個人でお持ちの歴史的資料や写真、言い伝えなどありましたら、取材や調査に行きたいと思いますのでご連絡下さい。

【問い合わせ先】 錦江町役場 企画課 Tel. 0994-22-3032